

第19章 福島県海浜青年の家

第1節 概要

海浜の恵まれた自然環境の中での集団宿泊研修活動をとおして、規律・責任・協同・友愛・奉仕の精神を涵養し、時代に対応できる健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

上記開設の趣旨を踏まえ、次のような教育目標を掲げその達成に努めてきた。

- (1) 思いやりの心に溢れた人間性豊かな青少年の育成。
- (2) 主体的で実践力に富み、創造性豊かな青少年の育成。
- (3) 心身を鍛え、自己を高めようとする意欲のある青少年の育成。
- (4) 郷土を愛し、地域社会を力強く形成していく青少年の育成。
- (5) 広い視野に立ち、国際理解の精神を身につけた青少年の育成。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

(表1)

役職	氏名	所属
理事長	渡辺 忠男	福島県教育委員会教育長
副理事長	新妻 威男	福島県総務部長
専務理事	堀内 俊秀	福島県海浜青年の家所長
理事	砂子田敦博	福島県教育庁教育次長
理事	今野 繁	相馬市長
理事	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
理事	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
理事	藤川 光紀	福島県教育庁生涯学習課長
理事	市橋 保彦	福島県総務部財政課長
理事	小山 昭	福島県教育庁財務課長

(2) 運営委員

(表2)

氏名	所属
◎佐藤 栄	相馬市教育委員会教育長
○菅野 典雄	飯館村立飯館村公民館長
戸田 修	福島県青少年婦人課長
伊藤 行和	福島県教育庁生涯学習課主幹
渡部 光明	福島県立原町高等学校長
門馬 孝義	小高町立小高中学校長
太田 豊秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
田中 俊英	相馬青年会議所副理事長
加藤 桂子	(利用者代表)
先崎 貞臣	(同)

◎印 委員長 ○印 副委員長

(3) 職員組織

(表3)

職員	所長	次席 業務課 長兼 兼長	指導 課長	主 事	指導 主事	主保 健技 任師	兼 任 運 転 手 員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

2 平成4年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の利用促進と研修の充実
 - ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をとおして青少年の「社会参加意識」の高揚を図った。
 - イ 多様な研修のねらいに応じられるよう、研修プログラムを工夫し、研修内容の充実を図った。
- ② 学校団体の研修の充実
 - ア 利用団体が、自主的・主体的な研修活動が進められるよう、学校との連絡を密にし、適切な指導援助に努めた。
 - イ 指導資料の整備と効果的な指導援助を行い、各団体の研修のねらいの達成に努めた。
- ③ 広報活動の充実と各種団体の利用拡大
 - ア 「所報」の効果的な活用による施設の紹介を進めるとともに、社会教育関係機関・団体との連携を密にしたりしながら利用の啓蒙に努めた。

(2) 主催事業の効果的運営

- ① 主催事業の重点的運営
 - ア 集団宿泊指導担当者研修会（5・6・2月の3回実施）
 - イ 親子・海浜のつどい（7月に実施）
 - ウ 高校生・海浜のつどい（8月に実施）
 - エ 学校週5日制対応事業（9月魚つり大会、11月レッツ・ゴーサイクリング、12月エンジョイ・ウインター、1月相馬市内見学研修、2月レク・ゲーム大会、3月海浜・ウォークラリー）

② 事業内容の工夫・改善と啓蒙

- ア 事業のねらいに即した内容を計画し、魅力ある活動になるように努めた。
- イ 各学校・各種団体に対し、積極的に啓蒙活動を進めた。（特に学校週5日制対応事業）

(3) 現職教育の計画的推進

- ① 所内研修の充実
 - ア 実地踏査・実技研修等を計画的に行い、指導に精通するように努めた。
 - イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導力と資質の向上に努めた。
 - ウ O A 機器の活用に精通し、事務の能率化を図った。
- ② 施設機能充実等の研究
 - ア 他社会教育施設等を視察し、本施設機能の充実に生かした。